







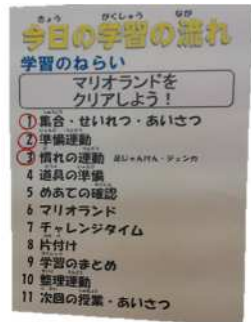


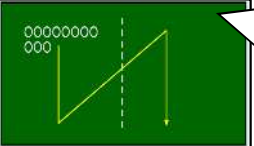




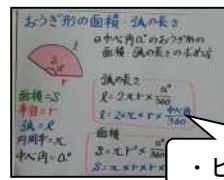

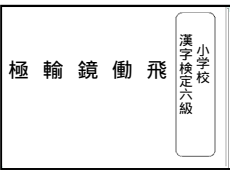




項目	主旨	具体例
教室環境 1 「場の構造化」	構造化には、見ただけで分かるように明瞭に表示する、空間を目的別に仕切る、合理的にものを配置するなどの方策がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物品の整理整頓（清掃用具、文房具、木工工具等） ・宿題や提出物を提出する専用の箱 ・空間を目的別に区切る（教室のレイアウト） ・合理的な場所の配置（番号順の提出箱） ・立ち位置を示す（マーカー、三角コーン等）  <p>写真で収納の仕方を掲示。</p> 
教室環境 2 「刺激への配慮」	児童生徒の注意をそらしたり大切な情報を分かりにくくしたりする余分な刺激（情報）を取り除くことで学習に集中できる。配慮したい刺激として、視覚刺激 聴覚刺激 人的刺激が挙げられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚：簡素な黒板周り、棚に目隠しカーテンや目張り ・聴覚：椅子の脚にテニスボール ・人的：座席の配慮（刺激し合う子同士は、座席を離す）、パーティションの活用 <p>パーティションで、仕切られた学習スペース。</p> 
ルールの確立 （手順や工程）	ルールや作業工程を予め明確に示すことで、その場の状況判断が苦手な児童生徒でも安心して学習や生活に向かうことができる。  <p>「借りる時の約束」を掲示しておくことで、ルールの定着を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の共有備品の借用の仕方、声の大きさ、鉛筆の持ち方、話を聞く時の姿勢（手は膝に、相手の顔を見る）などのルールの徹底（掲示） ・授業の始まりと終わりのあいさつの姿勢 ・発言の仕方や発表の仕方・手順や行程（朝の身支度、掃除の手順、日直の仕事）  <p>テーブル拭きの仕方。</p> 
生活の見通し	見通しを持って行動できるようにするには「これから何をすればいいか」「提出物など忘れ物はないか」などの重要な事項を視覚的に分かりやすく示すことが大切になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割表の工夫、週日課、月予定表の工夫 ・朝の服装チェック ・手帳やノート、メモ帳の活用 <p>黒板に掲示したマグネット式の予定表。</p> <p>メモを書き込むことから ・初めは重要事項のみ。 ・終わったら——で消す。 ・教師が付箋を渡すことも。</p> 
授業の見通し	授業のめあてや流れを明示することで、見通しを持って授業に臨むことができる。いつまでに何をするのか、どこまでやれば終わり（区切り）なのか、はっきり示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のめあて（目標）や流れを黒板に掲示する ・今、授業のどの段階で何が行われているかを示す ・課題ボックスの活用 ・いつまでに何をするのか分かる（アラーム、チャイムの活用） <p>残り時間が「見える」タイマー</p> 

<p>授業の 組み立て</p>	<p>授業に一定の型があることで、単元が変わっても学習の流れそのものはいつもと変わらないため児童生徒は見通しを持って取り組みやすく、安心して活動できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、一定の流れですすむ授業のスタイル ・一斉指導とグループ指導の組み合わせ 
<p>板書の工夫</p>	<p>板書の目的は、視覚に訴え、思考を深めることにある。そのままでは消えてしまう言葉のやりとりを板書の形に整理することで、思考の拠り所となる。</p>  <p>見るべきポイントが明確に。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」「ポイント」などの表示 ・チョークの色分け（基本は白と黄、強調や補助線に赤や青を使用） ・板書は消さずに残す <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード(小黑板)の活用 ・プロジェクター(パワーポイント)の活用 
<p>集中・注目の させ方</p>	<p>聞き漏らしを無くし、学習に集中させるためには、耳を傾けさせるだけではなく、視線を引きつけ、手を統制し、姿勢を正すなど「聞く構え」を作ることが重要である。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・注意喚起、沈黙の活用、視覚教材の活用 ・教師の話聞く場面と板書を写す場面を分ける ・重要な話は同じ立ち位置で話す ・短く、端的な説明 ・興味を引きつける教材の工夫 
<p>指示の 出し方</p>	<p>記憶に残りやすい指示は、注意を喚起すること、指示する内容が明確で具体的であること、聞く側にとって要点を整理しやすいこと、視覚的情報を活用することが挙げられる。</p> <p>物理レポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切 12/5 (水) ・内容 教科書 p.55 の表 2 を参考に... <p>大切な内容は掲示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の始まりと終わりを明確に示す ・机間指導中に教室の後から全体に指示を出さない ・具体的に話す (×「しっかり」×「ちゃんと」) ・肯定的な表現 (×「走るな」「廊下は歩きます」) 
<p>参加の促進</p>	<p>教科教育の中で培われてきた「わかる授業」の工夫の中には、ユニバーサルデザインの視点が多く含まれている。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・help カード、ヒントカードの活用 ・机間指導（全体説明と個別の説明） ・多様な解決方法を示す ・プリント教材、ワークシートの工夫 <p>・ヒントカードの例</p> <p>・ヘルプカードの例</p> 
<p>個人差への 配慮</p>	<p>個人差があることを前提とした学級経営や授業づくりが大切で、「特別扱い」という発想ではなく、必要であれば「誰でも受けることのできる支援」と考えたい。</p>  <p>・下学年のドリルをそのまま使うのではなく「級」で示す。 ・本人が学習内容(プリント)を選べるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活躍できる場や活動の用意（作業工程全てを課すのではなく分業化し、得意なものを任せる） ・選べる教材 ・個別の補助具や補助教材の活用 ・学力に合わせた教材の工夫
<p>学級モラルの 形成</p>	<p>個人差への配慮が学級に受け入れられるには、日頃からお互いの個性を認め合う風土が培われており、価値の多様さに気付くことが不可欠になる。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの発表を聴くときのルール ・助け合いや認め合いの場面の設定 ・個性や違いを認める学級の風土があること ・日頃から多様な価値観を児童生徒に伝える  <p>友だちの発表を聴くとき、自分が発表するときのルールの掲示。</p>